

2001・11・26 会長社長定例記者会見＜要旨＞

１． 地上デジタル放送の今後

記者：地上波デジタルの変換に、総務省なんかも色々見解出してると思うのですが、民放として今度どのように対策をとられるか。

氏家会長：政府の政策転換で地上波デジタルに踏み切る分けだから、総務省には受信者対策は政府がおやりになるべきだと繰り返し申し上げました。総務省も、その範囲内でなんとか知恵を出しますと言ってたから、予定通りできるという見込みでやっていると理解しています。

記者：遅れとか、時期的な方向みたいなものは？

氏家社長：総務省では、時期を間に合わせるために、STB方式をとる言っているんだから、それはなんとか間に合わせますと言ってたよ。

記者：民放としては、率直なところどうなんですか？

氏家会長：今度はインベスティゲーションに入るでしょみんな。民放からもいろいろ人を出して。来年6月までにきちっとやろうということらしいから、それには最大限協力しようと思ってますからね。

記者：民放のほうに財源の一部を負担してくれというようなことにはならないか？

氏家会長：放送事業者が出す筋ではないですね。デジタル化して、国の資源が有効に使われるというのは、極めていいことだけど、それと現実に仕事している我々の問題とは、おのずから違う。これは前から言っているんだけど、飛行場を拡大して大きなものにするというのは、国民経済的にはプラスかもしれないけど、それに乗り入れてる各航空会社が全部金出し合って作るってことにはならないでしょうー同じことなんですね、デジタル化対策っていうのは。これは国の政策ですから。

そういう形では、我々が金を出す筋は最初から無いというのが、我々の主張ですからね。

2. CS日本のチャンネル編成及び各主要コンテンツについて

記者:CS日本の放送内容が見えてくる時期なのではないかと思うんですが。

萩原社長:現段階では6チャンネル プラス、データ放送ということでいくつもりです。

番組供給としては日本テレビが2チャンネル番供:一つは“スポーツ&読売チャンネル”(仮称)です。これは巨人戦の完全中継を中心としたスポーツチャンネルにプラスして読売新聞が制作しますニュース解説。読売新聞の編集委員クラスの方が、解説をするというチャンネルであります。このチャンネルは、巨人戦の完全中継をはじめとして、私共が放送権をもっております、例えばNOAHというプロレス、東京帝拳を中心とするボクシング「ダイナミックグローブ」、それから例えばゴルフの中継で地上波は土日をやるとしても、木金のラウンドとか。そういうふうに、私共のスポーツソフトを中心に編成をしていくということになります。

もう一つの日本テレビ番供のチャンネルはNNN24 という、これはケーブルで今もやっておりますものです。これは、完全なニュースチャンネルです。

3つ目は、CS日本自体が番供になって持つチャンネルでございまして、これも仮の名前ですけど「うひょひチャンネル」。これは地上波の人気番組に連動した形で24時間生放送でやるということを原則としたチャンネルであります。

その他には、現在予定されておりますのが金融経済情報のチャンネル、それから科学・教育のチャンネル、それから若者向けの音楽チャンネル。

これらの番供はそれぞれのチャンネルによって違います。私共でもないし、CS日本でもない。今、交渉中でありまして、ちょっと具体的な名前はまだ教えられないところにあります。

記者:放送は予定通りですか？

萩原社長:予定通りのつもりです。巨人戦のオープン戦の始まる時期にあわせたいと思います。今の予定では3月試験放送、4月課金という予定です。

記者:現在ケーブルテレビでもNNN24 が流されていると思うんですけども、そこでは来年から巨人戦がなくなるということですか？

萩原社長:CATV配信は、スポーツ&読売チャンネルの方でやっていただけるように現在交渉中です。さらに、NNN24 を別にやってもらえるよう交渉をしている途中で、まだ見通しは立ちません。巨人戦完全中継が入っているスポーツ&読売チャンネルを中心にCATVに売るということです。

3. NHKの完全中継が来季G戦全体に与える影響について

記者：今巨人戦の完全中継の話が出たんですが、NHKが来季から完全中継することによって、視聴率などへの影響をどのように考えていらっしゃるか。

萩原社長：NHKは土曜日4本、それから月曜日の祭日に1本中継することなんです。日本テレビは通常土曜日に関しては、19時～21時までが2時間のスペシャル番組、21時以降はドラマという編成になります。そういう意味で言うと、NHKの完全中継がウラに来るからといって、当方の編成が何らかの対策を打つという必要は無いですね。スペシャル枠は、今まででもフジテレビ／TBSにナイターが入るケースによって、そのスペシャル番組の単発の企画が、そういう裏番組に合わせた企画を取り上げている訳ですから、NHKに野球が入るとなればそれに対抗できる単発ソフトをスペシャル枠で編成すればいい訳です。

そういう意味で言えばうちのほうで、編成をどうかするってことは、考える必要は無いです。月曜日の場合には1試合だけで、しかも祭日ですから、私共の番組は少なくとも19時20時は強いんですから、まあ今まで他局にナイターが入った時と同じと考えていいのではないかと思います。

視聴率的にいいますと、私共は年間・年度の三冠というのを死守しようというのが大きな建前ではありますが、4試合5試合くらいNHKさんの数字があったとしても、相対的な関係では大きな影響があるとは思えません。総合的に見て、1年間とか長いスパンで見た時は、あまり視聴率的な影響は無いと思います。それよりむしろ、そういうことによって巨人ソフトそのものが、良くなるのであれば、そのほうがいいなと思います。

4. ニッポン放送によるベ이스ターズ買収についての見解 ～野球協定183条の精神との関連～

記者：プロ野球がらみで、ニッポン放送のベ이스ターズの問題について、会長どのようにお考えでしょうか？

氏家会長：僕は基本協定をよく読んではいないからわからないんだけど、もし、このまま続くようなことがあればゆっくり読んで対案を考えてみようかなと思ってますけど。

183条ってのも、出来上がった経過も随分いろんなことがあるらしくて、調べないと本当の経緯はよくわからないみたいだね。

5. 民間放送50周年大会の総括

記者：民放の50周年大会が開かれましたけど、これを総括してご感想等を。

氏家会長：アメリカのNAB大会は、民放だけ集まってやってるっていうんじゃなくて、メーカーと一緒にあって大会をやっているんだよ。アメリカっていうのはそういう点で徹底しているなって思ったんだけど、大変混んでいるんだよね、10万人くらい来るって言ってたもんね。

これから日本も、民放大会じゃなくて、民放祭みたいにしていった方が、放送と、見てくださる視聴者の方とが融合できるような雰囲気のものを作っていくのがいいんだろうと思う。だんだんその方向に進んでいくと思いますよ。

記者：大会の参加者が少なかったですね、せっかく面白い議論もあったのに。

氏家会長：初めはオープンにしようとしたんだ。それで、天皇皇后両陛下がお見えになるということだから、もう少しオープンにしたらいんじゃないかなと思ってやってたんだけど。同時多発テロがなければ本当にできたんじゃないかなって思いますよ。そういう意味じゃ、テロは我々にとってもマイナスに作用したね。

6. 今年の総括と来年の展望（視聴率・収支など）

記者：今年最後の会見ということで、今年の総括と来年に向けての展望をお聞かせください。

萩原社長：視聴率のほうから言うと、まだ終ってはいませんが、8年連続で年間の四冠王が取れるということはもう確実です。今年に関しては、多少の計算違いがありまして、一番はまず1—3月のドラマが私共のは非常に不振で、フジテレビが非常によかったために、1—3月にプライムタイムで大きな貯金ができなかったってことが一つ。それから、4月以降にいつもは貯金の上積みというようなことを言っていたんですが、ご承知のとおり巨人戦が3.7%ダウンしたというようなことで、貯金を巨人戦ではできなかった。しかし思ったより私共のレギュラー番組が強かったということで、巨人戦のダウンがそれほど大きな影響なしに、アベレージ的には結構いい水準で終わったということです。6月ごろにちょっと危機感を感じたんですけども、それ以後の経過としては、思ったより厳しい戦争にならなくて済んだなという感じはもっています。ただ、来年に関して言えば、やはり巨人戦をどのくらいに読むのかってことはあります。それから、私共の番組で、来年、多少下降ぎみになる番組も想定はしておかなければいけない。というようなことで言うと、来年はやはり社内の引き締めも含めて、戦闘態勢に入ろう

かと思います。したがって、12月1日人事で戦闘態勢の人事を取りました。土屋君が編成部長になったというのもある意味で言えば、戦闘態勢の一つなんですけども、それに加えてもうひとつ戦闘態勢をひこうということです。危機感をもっておりますけど、9年連続に関しては自信はあります。

この戦闘態勢がうまくはまれば、10年11年連続といけると思います。そういう意味で言うと来年はひとつの節目かなと思います。TBSが出てくるかフジが出てくるかわかりませんが、2局がこれはダメだということまで引き離したいなという意味での戦闘態勢ということです。

収支に関してはですね、中間期の決算は、大幅な増益ということにはなったんですが、10月以降は非常に厳しい数字が出る。従って、通期では微減収、微減益。つまり上期がこれだけあるにもかかわらず、通期になるともしかしたら微減益かなというぐらいの厳しい予想をしております。

したがってそういう予想ですから、来季に関しては相当厳しい収支を考えていかなきゃいけないのかなということです。

ただ、どういう時代になっても番組のクオリティーだけは絶対落とさないというのが、ずっとここまで通してきた私共の考え方でありますから、番組のクオリティーだけは絶対に確保するということだけは、やって参ります。視聴率同様に収入についても最悪のシナリオを書きながらやっていかなきゃいけないかなと考えています。制作費はクオリティーを落としますが、その他の部門で、色々な意味で節約につとめて、もし収入が減になっても、制作費だけは、ばっちり出るような予算を組んで行きたい。

記者：先ほどの12月1日の人事で、戦闘態勢に入ることですが。

萩原社長：五味一男君を編成部の企画担当部長に起用します。したがって、土屋編成部長と五味企画担当部長という、言うなれば私共の8年連続四冠王を支えてきた者、しかも、現役ディレクターです。編成部長と言うと、なんとなくプロデューサーが多いですけども、思い切ってディレクターを起用したということは、彼らの視聴率取りのノウハウと、企画力というものを中心に考えているということです。従って、もちろんレギュラー番組の改編もいくつかやりますし、同時に特番編成等々でも、彼らの力を思い切って発揮させたいということですね。

それで、基礎がかちとできれば彼らもまた現場に戻っても大丈夫なような基盤が作れると思うので、来年が戦闘態勢だ節目だといったのはそういう意味です。

7. その他

記者: 執行役員制度を導入されてですね、会長と社長の分担もされてそのへんの効果みたいなものは？

萩原社長: 執行役員制度を引いたのは、経営と執行というものをはっきり分けることによって、いわゆる決済のスピードアップ化、責任の権限委譲が狙いだった訳です。そういう意味でいうと自画自賛かもしれないですけど、非常に上手く行ってると思います。特に関連会社の社長3人に、執行役員に入ってもらっているんですが、社外関連会社の社長といえども、とくに連結決算の時代ですから、日本テレビの経営全体について、アイデアを出してもらおうという目的でやっている訳ですけども、そういったことで言うと、かなり効果が出ているかなと思います。今までなかなか手がつかなかった問題についても、執行役員会議の場でかなり、いくつかの改革が行われています。これもやはりこういう制度改革の成果かなと、そういうふうに考えております。

記者: 氏家さんに聞きたいんですけど、民放連会長として、今年の総括を。

氏家会長: 私は今年は民放連はじまって以来の構造改革に迫られた時だと思ってますね。それは、衛星放送とデジタルが出てきたということなんですよ。体制が非常に大きく変わった筋目が、偶然にも 2000 年から 2001 年に来たっていうことですね。先ほどちょっと申し上げたけどもね、アナアナ変換で区域外視聴が最初問題になって、これなぜかって言うと1県4波体制というものを作りあげた結果です。このことは、今まで1県4波体制でやってきた地上波のシステムっていうのが、大きく現実から批判をつきつけられたということなんですよ。

そういうような状況が現れたってことは、やはりこの民放始まってから 50 年以來最大の転機だなんて感じが今してます。これに片が付くまであと1〜2年、大変でしょうね。

記者: もう一つ大きな懸案が、放送界だけでなくメディア全般に引かれた規制なんですが、青少年問題など一連の動きの総括を。

会長: 青少年対策という問題だけじゃなしに、規制緩和の時代に最も重要な国民の権利である、知る権利と報道の権利というものを制約するのがよくないという考え方が、一般の人に再認識された。青少年など個々の問題につきましてはね、関係者の方が

言っておられる中には、まったく実状を知らないっていう方もいらっしゃいますね。それから、政治家の人でもテレビなんか見る機会は少ないと思いますね。

こういう面を啓蒙していくっていうのが、ひとつ我々の重要な役割りであると同時に、だからと言って我々がやっていることが全部正しいと、うぬぼれて言うつもりは毛頭ないですよ。絶えず、我々はいつ誤るかわからないから、自分自身を絶えず引き締めてという、その厳粛な気持を強く持ちつづける必要があると、放送業者としては、これは、私の偽らざる感想ですね。

記者：先ほどの巨人戦の中継の件もそうですけど、NHKの放映権料は明らかににはされていませんが、ソフトをドンドン、NHKが買うと。そのへんは…

氏家：媒体が広がるとね、NHKとのソフト争い、取り合いがどうしてもおこるんですよ。体力の限界以上にとろうとしますからね、そうするとNHKなんかとぶつかる機会が非常にでてくる。波が少ないとそんなに出てこないですけどね、波が多いと完全に出てくる。非常に危険なことをするな、と思ったのが、スカパーさんがワールドカップを買ったことです。ああいうことが、今後どんどんどん起ってくると、NHKと民放がぶつかる可能性があるんです。

そこがね、最大の問題点なんですよ。NHKの場合はね、よく“節度ある、節度ある”とっているけど、節度あるってどういう意味だ？中身は何だ？と。私は“お行儀よくします”と、口で言うのは簡単だけど、どこがお行儀がよくて、どこが悪いんだってことを、細かく理論的に分析すべきだと思う。

新聞協会が批判したのも、ここなんです実際は。ところがね、あれは、細かく分析しようと思って、インターネットと言ったわけでしょ。

そうすると、私は方法論として正しいと思うんですが、節度あるっていうけど、中身がわからないじゃないか、それじゃひとつづつやってみようということで、インターネットの事を言ったら、何とか研究会とかいうのができて、インターネットに出るとか出ないとか、その部分だけに、問題を集中させたんだね。

そうじゃないんです。これは一つの部門であって、さっき申し上げたとおり、ソフトを取り合うとか、権利関係をどうするとか、たくさんあるんです。それが、節度の内容なんです。NHKの節度とは何かという問題を、研究するように提案しているんです。

記者：ワールドカップの抽選会が今週末に行われるんですが、まあ、だいたいのパッ

テージが決まっているとか、4系列でどうあるとか、そのへんの進捗状況を。

漆戸社長(BS 日本社長、民放連オリンピック放送等特別委員会会長)：

今具体的な作業をしている真っ最中なんですけど、一番大きいのが 12 月1日のドラフトが終って、いわゆる組み合わせがおわった時に、どれをどういうふうにするかという、とくにジャパンコンソーシアムとしては 64 試合中の 40 試合をどう取るかという、非常に具体的な作業に入ります。

そのうちまたNHKさんと分けますから、このうちの 16 試合をどういうパッケージで分けるか、民放地上波が5系列ありますから、それを均等に5分の1にするとするわけにもいきませんし。というより、このうちはっきり、NHKと民放で、日本の予選の3試合をどういうふうに分けるかということです。

一応、NHKさんが第1戦をご希望になってらっしゃるんで、我々民放は第2戦と第3戦を取ろうという、まあ結果としてそうなるんですね。

そのほかにNHKさんは、第1戦をとることで、あと、決勝戦を取るというような。

NHKと民放のわりふりが、もう一合戦あるわけですから。

それが終わった後に 12 月5日～10日にかけて、民放内部でもこれを、どういうふうに分けるかっていうことがありますね。

一つの条件として、とくに、日本戦に関しては全国放送じゃなきゃならないという制約がありますから、キーが5局あると言いながら、こう言っては申し訳ないんですが、テレビ東京さんは、ネットが足りないんですね。その他の4系列でもって日本戦を含んだパッケージを4系列でやるということになると思います。

これはね、ただ一つだけ問題なのは2戦、3戦のうち第3戦がですね、大阪の分が今の予定ですと、試合開始が15時半なんです。ウィークディでしかも金曜日ですから。それをやってしまうと、今度の日本の最大のイベントでありながら、日本の視聴者が大半の方が御覧になれない。非常に矛盾がありますね。しかも、非常に高額なものを回収しなければならないという問題もありますから。せめてこれを、18時の試合開始にそろえてくれないかということをFIFAの方と交渉中です。

ただ、その日本戦だけでなく、それと揃えるHグループっていう日本が入っているグループのもう一試合のぶんも一緒に下げなきゃならないとか、いろいろ条件がありましてね。27日のトヨタカップにプラッター会長が来るものですからね、プラッターに直接交渉してみようとか、いろいろ考えているんです。

記者：4系列でどこが引いてもですね、すべてカバーしてる系列は無いですよ？その場合はシドニーオリンピックでテレ朝が女子マラソンを引き当てて、四国だったか、系列を超えた、あの方式になるわけですね？

漆戸:それは是非やりたいと思ってます。基本的に各系列のトップとも、最終的な了解を得ていないので、これから決まった段階で考えようと思いますが。

記者:BSの方はどんなあんばいで？

漆戸:BSの方は、ハイビジョンHDTV 専門ということで、これはこの間もご連絡しましたように、BSが16×2(再放送)=32試合 放送できるようになっています。これは、BSに関して言えば、地上波のようなハンデキャップは無いわけですから、全国に行くわけですから、これに関してはイーブンで行こうと思っていたんですが、実は、地上波とのある種セットで考えていきませんか、例えば、同一ゲームを、地上波では日本テレビがやり衛星でBSiさんがおやりになるというお互いに宣伝しにくいですね。だから、日本テレビがやる分はBS日テレがやったほうが、衛星でも地上波でもお互い、こういう試合やるよってというのが宣伝しやすいですから。今の所考えているのは、BSと地上波とセットで考えたい。ところがその、局数が違うんですね、WOWOWさんが入りますから、6で割らなきゃいけないという問題がありまして、WOWOWさんとBSジャパンさんですが、そのBSジャパンさんのほうは、テレビ東京さんとセットになると、日本戦が入らないということになりますから、そのハンデキャップがあるんでBSの場合は、基本的には地上波とのセットですが、WOWOWさんとBSジャパンさんが、試合数が多くなると思います。という形でもってBSの公平性を保っていこう。という考え方で今、作業をしております。

以 上